

道路景観向上手法に関する技術資料

～北海道の道路デザインブック・景観チェックリスト～

令和元年6月12日

土研 新技術ショーケース 2019 in 広島



国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
地域景観チーム

緒方 聡
緒方 聡

地域景観チームの研究紹介

■ 寒地土研に平成18年に設置（土木研究所つくばとの統合）

良好な景観形成によるインフラの質の向上や利用価値の高め、
ユーザー満足度向上や地域を支援する研究を行っている

“利用者”や“地域”の視点で研究を進めている

■ 土木景観に関する研究

景観の評価手法や向上策、社会的効果、歩行空間の設計技術
無電柱化技術、土木施設の色彩設計、街路樹の景観機能と管理

■ 社会資本の観光利活用に関する研究

道の駅の設計・改修技術や魅力能向上手法、国際的観光地の公共空間の評価、国際的ロードツーリズム、わかりやすい案内サイン
など・・・

地域景観チーム ホームページ

<http://scenic.ceri.go.jp>

本日の内容

1. 本書作成の背景と位置付け
2. 北海道の道路デザインブック
3. 道路景観チェックリスト
4. ダウンロード先、最新の研究成果

1. 本書作成の背景と位置付け

Copyright © scenic.ceri.go.jp All Rights Reserved. (Photo by Merafi)

北海道 富良野市 国道38号 芦別岳と桜並木

道路付属施設の景観への影響

“視軸線阻害”を起こしやすい道路付属施設
見たいもの（見せたいもの）をすっきりと見せるだけで、景観自体は向上する。



- 北海道の雄大な自然景観は貴重な資源
- 旅行者の多くは非日常的な「手付かずの自然」を体験しにくる

フォトモンタージュ

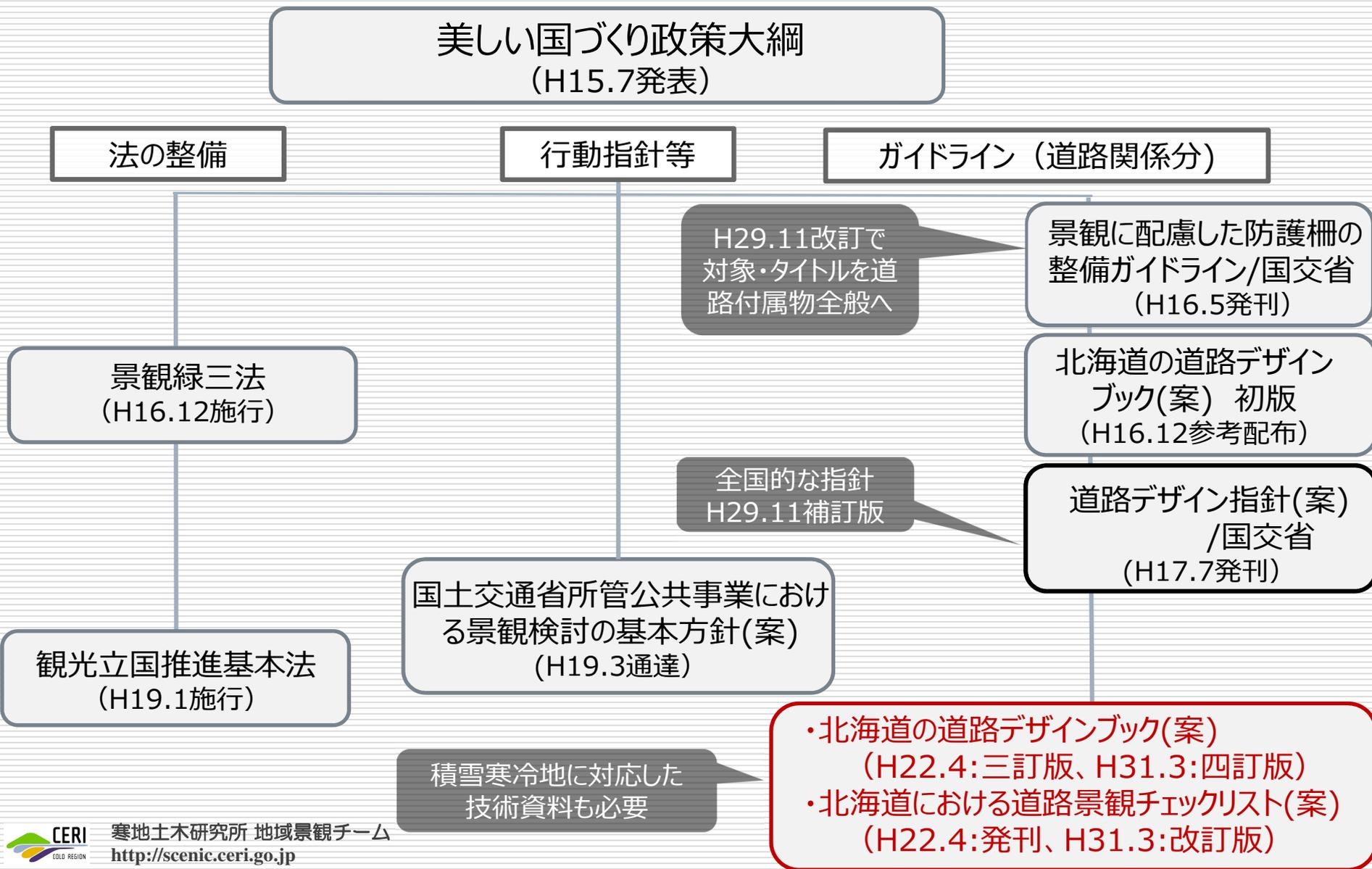
道路附属施設の景観への影響（機能低下させずに、いかに減らせるか）

そのためには、機能低下させず、道路附属施設をいかに減らすかが、道路景観向上の一つの鍵である。



近年の景観施策と技術資料の作成

<道路DB> P.1-2より抜粋

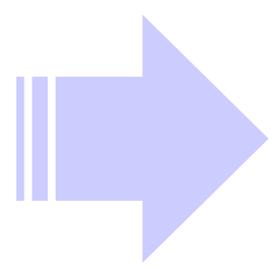


・北海道の道路デザインブック(案)
 (H22.4:三訂版、H31.3:四訂版)
 ・北海道における道路景観チェックリスト(案)
 (H22.4:発刊、H31.3:改訂版)

デザイン指針を基とした技術資料

基とした資料

道路デザイン指針 (案)



北海道の道路デザインブック (案)



- 教科書
- 基本理念
- 手法
- ルール



北海道における道路景観
チェックリスト (案)



- 実例集
- 景観改善のポイントを用いて解りやすく解説

◆位置づけ：
「教科書」「実例集」の2部構成として作成

◆狙い
北海道の自然や景観特性に配慮し、道路事業の計画～維持管理まで、すべての段階において活用できる、『実践的な景観向上策の提示』

● 理念/手法

- 第1章 本書の活用に当たって
- 第2章 景観整備の意義
- 第3章 北海道の景観特性
- 第4章 道路デザインコンセプト
- 第5章 道路デザイン手法

● ルール

- 第6章 道路線形
- 第7章 道路断面
- 第8章 構造物
- 第9章 道路付属物
- 第10章 緑化
- 第11章 休憩施設
- 第12章 事業連携
- 第13章 その他の留意事項

● 参考資料

- 資料1 北海道のみちづくり・補足
- 資料2 用語の定義
- 資料3 視覚的分析手法
- 資料4 デザインツール
- 資料5 ケーススタディ
- 資料6 事例写真集

道路景観向上
のための基本
理念や実例を
示したもの。



北海道の道路デザインブック(案)

～積雪寒冷地における計画・設計・建設・維持管理での基本的な考え方～

2019年3月

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

道路景観チェックリスト ～構成～

<道路CL> 目次より抜粋

【目次】

- 道路線形編
- 道路断面編
- 道路緑化編
- 道路付属施設編
- 維持コスト縮減編
- 海外の事例



具体的な景観改善の手法を、チェックリスト形式で示したもの

～道路付属施設編～	39
道路付属施設の設置の際の基本的な考え方	40
道路付属施設に起因するさまざまな課題	41
防護柵① 防護柵を削減できる区間はないか？	41
防護柵② 短い区間で異なるデザインの防護柵を採用していないか？	42
防護柵③ 一定区間で異なる色彩の防護柵を採用していないか？	43
防護柵④ 防護柵等の道路附属物は、シンプルなデザインになっているか？	44
固定式視線誘導標① 矢羽根を伸縮式スノーポールで代用できる区間はないか？	44
固定式視線誘導標② 視線誘導施設の過剰はないか？	46
固定式視線誘導標③ 同一路線で異なるデザインを採用していないか？	48
防雪柵① 防雪柵を設置しなくても済む方法はないか？	49
防雪柵② その収納方法で守るべき景観が保全されているか？	49
防雪柵③ 防雪林とすべき区間はないか？	51
植栽① 植栽は必要以上に剪定されていないか？	52

北海道における道路景観チェックリスト（案）

～ 計画・設計・建設・維持管理での具体的な景観向上策 ～

2019年 3月

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

2.北海道の道路デザインブック

Copyright © scenic.ceri.go.jp All Rights Reserved. (Photo by Meait)

北海道 千歳市 国道453号 支笏湖と恵庭岳

平地自然景域

<道路DB> P.4-10より

山間景域

丘陵景域

海岸湖沼
景域

平地自然
景域

平地田園
景域

市街地
景域

◆目標像：
周辺植生や、印象的な河川・山並みなどの地域
特有の景観を尊重する景観形成

◆原則1：自然への影響の軽減

◆原則2：植生を尊重した線形

◆原則3：自然の復元

◆原則4：眺望の確保

- 周辺の景観、山並み・河川などの印象的な景観を眺望できるように最低限必要な道路付属施設以外は設置しない
- 道路付属物を設置する場合でも、これらの眺望を阻害しない配置とする
- 防雪柵を設置する必要がある場合は、眺望確保に配慮する



湿原を回避して整備されている
湿原への眺望も良好



眺望を阻害しない防雪柵の事例

平地田園景域

<道路DB> P.4-12より

山間景域

丘陵景域

海岸湖沼
景域

平地自然
景域

平地田園
景域

市街地
景域

◆目標像：
道路の格に応じた設えと、官民連携による道路
景観づくり

◆原則1：直線道路、山アテ道路の尊重

- 平地田園景域では直線道路や山アテ道路が多く、地域の景観要素を効果的に認識できるように道路の特徴を活かすことが重要

◆原則2：地域の景観要素の活用

- 電線・電柱類は、景観要素の眺望を妨げない側に集約する、横断線を極力排除するなど電気・通信事業者と連携を図ることが望ましい
- 植栽においては、眺望を妨げる植栽は行わない一方で、案内標識や矢羽根などの柱類及び電柱を柔らかく隠す植栽を検討

◆原則3：地域との調和

◆原則4：景観のコントロール等



電柱・電線が片側にある山アテの道路



電線類が両側にあるなど、美しい景観もすっきり見ることができない

コストに関する考え方

<道路DB> P.5- 2 より

景観デザインは、設計条件の一部として扱わなければならない。しかし、その内容は、場の景観特性との関係を見極め、必要な措置を吟味して行うことが必要である。

また、初期コストおよび維持管理コスト、耐久性も検討し、バランスのとれた対応を行わなければならない。

【解説】

(1) 良好な景観を有する北海道においては、眺望を阻害するような位置に道路附属物等の設置を避けること、不快感を与えるような要素を排除することなど、「引き算のデザイン」が最も重要である。この観点を持って、本来満たすべき機能を十分に検討することで、コストを抑えて景観を良くすることも可能である。

(2) コスト増加につながる装飾的なデザインは回避することが原則である。特別な事情があり、高価な装飾的デザインを実施しなければならない時は、関係者と慎重に協議して合意を得ることはもちろんのこと、地域住民の納得を得られるような適切な対応が必要である。

(3) 構造物等のデザインにおいては、景観要件を設計条件の一部として扱うことが特に重要であり、構造形態そのものがデザインの良し悪しを決定することを肝に銘じておくべきである。その場合、個別の部位に着眼するよりも、総合的にコストを検証することが重要である。

(4) 耐久性については、一般的に機能面で評価されるが、景観的面でも評価することが必要である。例えば、形を保っているが、色が褪せたり錆びたりしている照明柱は景観面では問題がある。実際、見っとも無くなって取りかえられる道路附属物も多い。景観的にも耐久性が高いものを選択することは、コストの縮減にもつながることを意識すべきである。

維持管理段階における考え方

<道路DB> P.5-3より

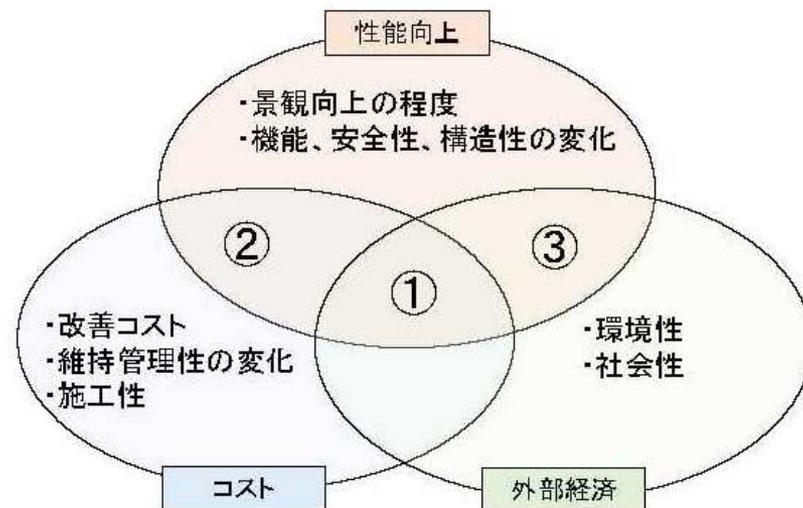
道路景観に対する社会的ニーズへの対応や、増大する維持管理コスト縮減のため、道路施設の集約化・撤去を図っていく必要がある。

【解説】

(2)～省略～。道路標識を始めとして維持管理段階において実施可能な景観向上策は少なくはなく、実施が容易である割には効果的であることも多い。近い将来に道路施設や道路附属物等の更新が大きな課題になると予想されるが、これらの更新は、高度経済成長期に効率性を重視して整備したことで景観的な配慮が十分ではなかったもの、その後の社会情勢や環境の変化等により適切ではなくなったもの等を最適化し、景観改善を図る好機とも捉えられる。



道路標識集約化の事例（出典：平成29年度第1回北海道道路メンテナンス会議（平成29年7月14日）資料3「老朽化対策の取り組み事例」）



※ 上記、①～③で優先順位を示す

図 5.1 景観改善における優先順位の考え方

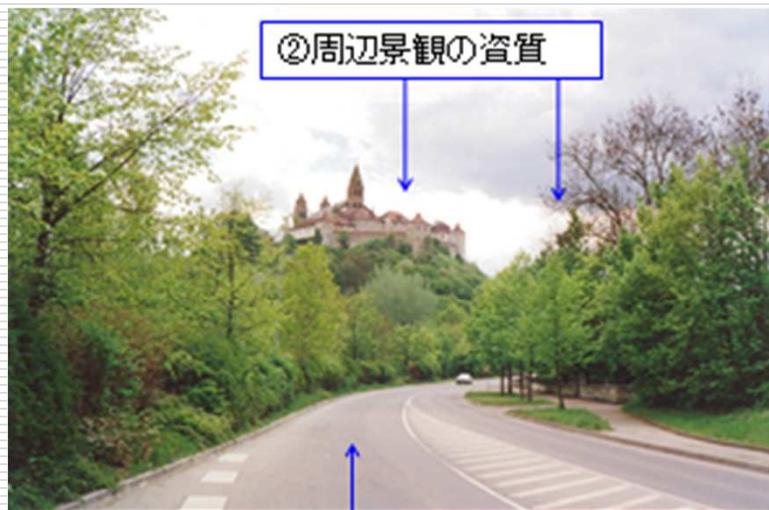
景観特性の把握

<道路DB> P.5-7より

対象道路の地域景観特性を把握するとともに、内部景観（走行景観）と道路外の視点場から眺めたときの道路自体の外部景観について、その視覚特性、見られ頻度、景観的魅力等を適切に把握しておかなければならない

表一内部景観・外部景観の捉え方

	役割	意義	評価項目
内部景観 (走行景観)	道路自体が視点場となる	道路利用者に魅力的な景観を提供する	①道路自体の構図的な美しさ
			②周辺景観の資質
外部景観	道路自体が視対象となる	沿道住民や道路周辺で活動している人々に良好な道路の姿を提供する	③重要な視点場からの眺め
			④見られ頻度



①道路自体の構図的な美しさ

③重要な視点場からの眺め

④見られ頻度

景観特性の事例

◆優れた内部景観の事例



美しい樹林と畑、山に向かってまっすぐに伸びる道路の構図が印象深い

◆優れた外部景観の事例



街の良好な景観と調和することにより、配慮して道路の景観も整えられる

◆好ましくない内部景観の事例



良好な景観が電柱・電線や道路附属物で阻害されており、悪印象を与える

◆好ましくない外部景観の事例



切土のり面が周囲の景観と馴染んでいないため違和感を与える

3.道路景観チェックリスト



北海道 羅臼町 国道334号 知床峠

道路景観チェックリスト ～構成～

<道路CL> 目次より抜粋

【目次】

- 道路線形編
- 道路断面編
- 道路緑化編
- 道路付属施設編
- 維持コスト縮減編
- 海外の事例



～道路附属施設編～	39
道路附属施設の設置の際の基本的な考え方	40
道路附属施設に起因するさまざまな課題	41
防護柵① 防護柵を削減できる区間はないか？	41
防護柵② 短い区間で異なるデザインの防護柵を採用していないか？	42
防護柵③ 一定区間で異なる色彩の防護柵を採用していないか？	43
防護柵④ 防護柵等の道路附属物は、シンプルなデザインになっているか？	44
固定式視線誘導標① 矢羽根を伸縮式スノーポールで代用できる区間はないか？	44
固定式視線誘導標② 視線誘導施設の過剰はないか？	46
固定式視線誘導標③ 同一路線で異なるデザインを採用していないか？	48
防雪柵① 防雪柵を設置しなくても済む方法はないか？	49
防雪柵② その収納方法で守るべき景観が保全されているか？	49
防雪柵③ 防雪林とすべき区間はないか？	51
植栽① 植栽は必要以上に剪定されていないか？	52

具体的な景観改善の手法を、チェックリスト形式で示したもの

北海道における道路景観チェックリスト（案）

～ 計画・設計・建設・維持管理での具体的な景観向上策 ～



2019年3月

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

道路景観チェックリスト ～線形④～

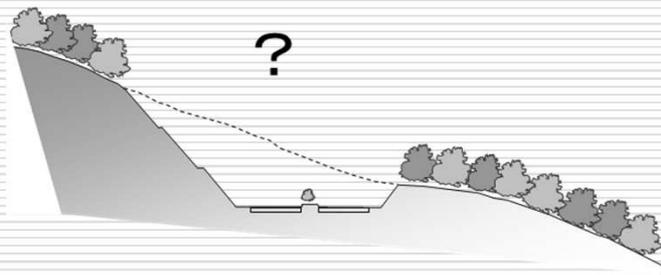
<道路CL> P.4より抜粋

概略 予備 詳細

線形④ 線形の移行により、地形改変を低減することができないか？

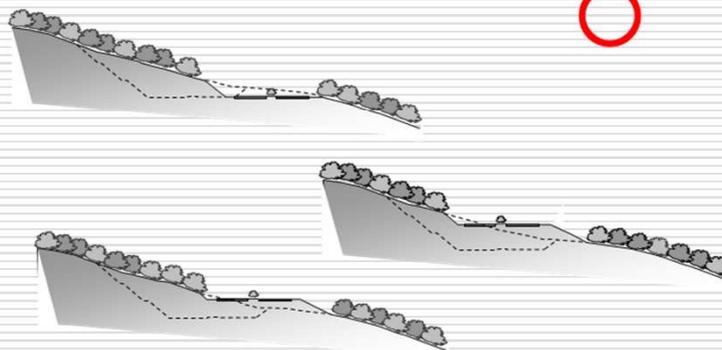
●景観改善のポイント

平面及び縦断線形の移行により、大規模な地形の改変が抑えられないか検討する。



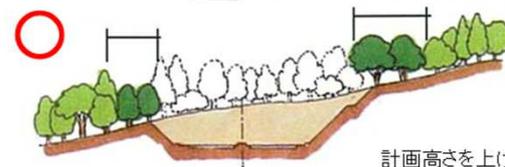
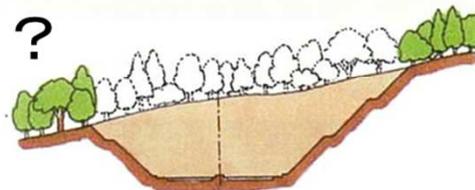
●改善策の例

平面線形



出展: 北海道の道路デザインブック(案)

縦断線形



計画高さを上げる

出展: 日本のグッドロードガイド

●解説

- 大規模なり面は景観的な課題となるのはもちろん、自然環境面からも影響が大きくなります。
- 大規模な切土のり面はコンクリート処理による保護がなされることも多く、人工的で圧迫感のある印象を与えます。
- 盛土のり面は、勾配が切土よりも緩く、自然を改変する面積が大きくなるため、線形の工夫により盛土のり面の面積を縮小を図ることが必要です。
- 土配計画の際には、縦断流用だけでなく横断面内での流用も検討することが必要です。

道路景観チェックリスト ～線形⑬～

<道路CL> P.10より抜粋

概略 予備 詳細

線形⑬ 景観に地域資源を取入れているか？

● 景観改善のポイント

計画区域内に良好な地域景観資源がある場合は、走行景観内に取入れる工夫を行う。

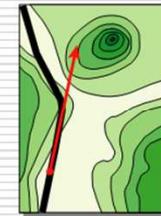


● 山を取入れた例

計画道路の周辺に美しい姿形の山や地域の歴史や風土に関わりの深い山がある場合は、「山アテ」の採用を検討したい。



山アテになっていない線形



山アテの事例



● 解説

- 自然環境への影響を最小化することを基本としながら、山、海、湖、ランドマーク等の地域の美しい景観を効果的に見せることを考慮します。
- 地域の美しい景観等、路線全体のイメージを左右する要素・区間を抽出し、そこを対象に道路景観の改善を図ることが、路線全体のイメージ向上に有効です。
- そのためには、景観資源への眺望を阻害しないような道路標識、照明施設、電線・電柱などの附属施設に対する工夫も必要です。

項目	地域特性
景観特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴的な地形、名山、水辺、名勝地 ・ 地域を代表する植生 ・ 地域性を持った土地利用
自然特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境、自然公園 ・ 自然性の高い植生のある地域及び貴重種の分布 ・ 地域の特徴を示す自然環境や地域
歴史特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な出来事の舞台 ・ 文化産業遺産 ・ 道路そのものの歴史的価値（位置・線形・パターン、石積擁壁・橋梁・トンネル等）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光施設 ・ レクリエーション施設

出典：北海道の道路デザインブック(案)

関連：北海道の道路デザインブック(案) 6-2 予備検討、6-3 概略設計

道路景観チェックリスト ～線形⑳～

<道路CL> P.12より抜粋

概略 予備 詳細

線形⑳ ビューポイントパーキングは、適切な位置・方法で整備されているか？

●景観改善のポイント

ビューポイントパーキングは、良好な眺望等により魅力的な景観資源を提供できる、地域や利用者のニーズに沿った場所に計画し、施設配置や施設形態は、良好な眺望を阻害しないようにする。



十勝岳連峰等を望む展望台だが、手前に業務用施設があり、景観が楽しめない。

●地域の景観資源

地域の景観資源は、自然的な景観資源(山岳、樹林、峠、丘陵、海、湖沼、花、等)や文化的な景観資源(名所・旧跡、遺跡・史跡、産業遺産(炭鉱など)、映画ロケ地、等)がある。



地域のシンボリックな存在であり、自然的な景観資源である羊蹄山

●改善策の例

眼前に広がる日本海の景観を活かすため、立上りの構造物を極力抑え、視線を遮らない防護柵のみとしている。



国道39号女満別町では、良好な農地景観が展開するメルヘンの丘を眺望するビューポイントパーキングを整備した。路側駐車帯と、撮影場所となる歩道から構成される。季節により撮影アングルをかえること、人を入れての撮影を考慮し、歩道はのり面の上部下部の2段構造となっている。



●解説

- 本線からの隔絶感が得られ、眺望を妨げることの無いレイアウトが望ましく、駐車中の自動車が景観を阻害しないよう、平面だけでなく三次元的に考えることが大切です。
- 良好な眺望を活かすには、良好な視点場の創出が第一です。視対象の改善より、視点場を整える方が効果が得られます。
- 視点場と視対象の間に眺望を阻害するものをつくらないこと、駐車している自動車越しに景色を眺めることにならないようすることが重要です。
- 盛土に自然なアンジュレーションをつける等、地形や土地利用、植生に合わせて、休憩施設の形を工夫することも有効です。

道路景観チェックリスト ～断面⑦～

<道路CL> P.19より抜粋

概略 予備 詳細

断面⑦ 道路・歩道の舗装や路面標示が、周辺の景観に対して、必要以上に目立っていないか？

●景観改善のポイント

舗装は、道路景観の要素の中でも大きな面積を占めるものであり、一般的には周辺景観を引き立たせる控え目な存在となることが求められる。



それぞれが主張し合う複数色のカラー舗装で構成され、煩雑な印象を与えている。(出典:資料1)



点字ブロックの輝度比を確保するための縁取りにより、色数が増え、煩雑な印象を与えている。(出典:資料1)

●解説

- 車道舗装は、景観に配慮すべき地域では、地域の特性に合わせて舗装材を選定します。
- また、注意喚起を目的としたカラー舗装や路面標示も他の沿道景観などに配慮した色遣いとします。
- 歩道の舗装は、歩道上の人々の姿が景観上の主役であることを意識し、点字ブロックを含めて、色彩や模様で歩道が目立つことのないようにすることが基本です。

●改善策の例

車道舗装において、コンクリート舗装は、アスファルト舗装より初期工費は高いが、耐久性に優れ、明度が高く、明るい印象を与えることから、沿道景観の色調によっては有効な場合がある。

カラー舗装を行う必要がある場合は、必要最小限の範囲を対象に、原色を避け、施工後の退色や汚損も考慮する必要がある。



コンクリート系舗装や半たわみ性舗装は明るい印象を与える(出典:資料1)



自転車レーンの青色表示を帯状に塗装しており、カラー舗装を必要最小限としている。(出典:Google ストリートビュー)



地域の色調に調和した色彩が選定されている

道路景観チェックリスト ～付属施設編～

<道路CL> P.41より抜粋

～道路附属施設に起因するさまざまな課題～

●道路附属施設の課題と景観

- 道路附属施設は、道路利用者の安全性を考慮した施設であるが、実際には必要以上に設置されている例も見られる。
- 道路附属施設を上手く削減することは、他の景観対策に比べて簡易に取り組め、景観改善に即効性がある。
- 雪寒冷地の欧米諸国と比較しても、北海道には特に多くの道路附属施設が設置されている。
- 防護柵を設置することで雪堤が出来、視程障害の発生することも懸念されている。
- 断続的に数多く設置される道路照明等は、形状や色彩が統一されていない場合などには、道路景観を損なう。
- 道路附属施設の削減は、維持管理コスト削減や施設への衝突事故の軽減など安全性の向上も期待できる。ドクターヘリの道路本線への離着陸の際も、道路上に様々な道路附属物が設置されていると障害物となり、研究が進む自動走行システムでも、自動走行技術が機能するために道路附属物や標識の集約・簡素化が求められている。このような理由からも、トータルで設置の有無を検討する必要がある。

【交通安全の課題】



電柱等への衝突



構造物で見通しの悪い道路

【景観の課題】



乱立する道路の柱類



良好な景観を阻害する道路附属施設

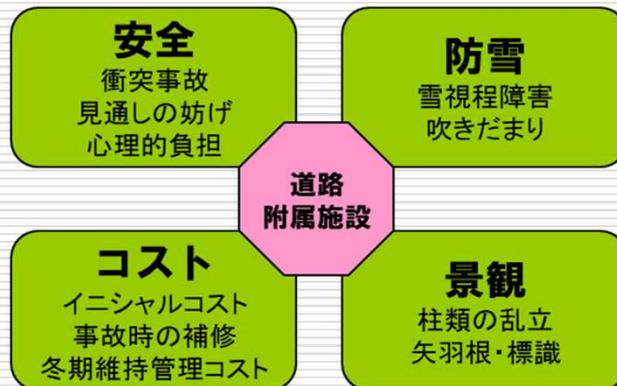
【コスト・環境への課題】



毎年のように発生する防雪柵の除雪



防護柵によって雪堤がある区間での視程障害



道路景観チェックリスト ～道路標識①～

<道路CL> P.53より抜粋

道路標識① 標識を設置する位置を変更できないか？

●景観改善のポイント

安全性を考慮し、標識支柱を極力車道から遠ざけることができないか検討する。



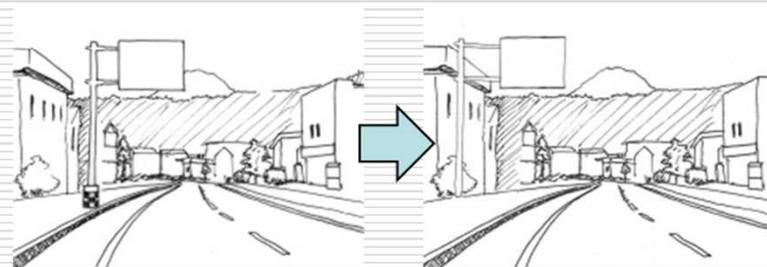
歩車道境界に設置された道路案内標識。衝突を防止するためクッションドラムなどが置かれ、さらに景観を悪くする場合もある。



標識をセットバックすることにより、景観改善とともに、衝突の危険性も軽減された事例

●解説

- 市街地の道路敷地境界に支柱が設置される道路標識は、支柱に衝突し大きな事故に至る場合があります。
- 支柱が車道に近い場合、圧迫感が形成されるとともに、表示板により良好な景色が覆われることもあります。
- 道路標識の設置にあたっては、安全性と周辺の景観資源との関係についても十分に検討をする必要があります。



道路敷地境界側に支柱をセットバックすることにより、衝突による危険が回避されるとともに、市中による圧迫感が軽減され、板面によってさえぎられる景色の見え方も改善されます。

道路景観チェックリスト ～道路標識②～

<道路CL> P.54より抜粋

道路標識② 標識は必要以上に設置されていないか？

●景観改善のポイント

利用者の視点に立ち、必要以上の標識が設置されていないかを検証する。



標識による情報提供が過多になっていませんか？

●解説

- ドライバーが走行中、一度に認識できる標識(情報)の数には限りがあります。
- 標識の機能を十分に発揮させるには、**その場所における道路附属物の必要性や優先順位を考慮して、必要最低限の情報を、効果的に提供することが求められます。**
- 標識の設置箇所が増えることは、衝突事故の可能性が高まることにも繋がります。標識は出来る限り少なくして、交通の安全性と維持管理を含めたコスト縮減を図ることが重要です。



与えるべき必要な情報を選択して整理をおこない、適切に設置するイメージ

支柱の本数を減らすことも大切だが、必ずしも1カ所で全ての情報を提供する必要はありません。

場合によっては適切な位置で情報を与えるため分離させる方がよいこともあります。

道路標識③ 標識を集約出来ないか？

●景観改善のポイント

近接する標識類は、ドライバーの効果が損なわれない範囲で集約化を図る。



近接して様々な標識が設置されている事例

視認しにくく煩雑な印象を与え、路外逸脱時に事故の重大化にもつながる



F型柱に情報板・2本の案内標識・管理区分標識を集約化することで、景観が保全された事例



近接して設置されている標識を、一本の支柱にまとめて設置したり、他の道路附属施設に共架することで、煩雑な景観を改善します。

●解説

- 複数の標識が整理されず単独で設置された場合、支柱の数が多くなり良好な景観を害すばかりか、路外逸脱時の安全性にも課題があります。
- 案内標識の支柱に規制標識を添架するなど、トータルで柱の本数の削減を積極的に考えたいものです。
- ただし、過度に標識を集約してしまうと情報量が多すぎて判読不可能になります。また、併設の組み合わせにも注意が必要です。

道路景観チェックリスト ～道路占用物等①～

<道路CL> P.62より抜粋

道路占用物等① バス停や屋外広告物等の道路占用物が目立ち過ぎていないか？

●景観改善のポイント

バス停やベンチ、道路敷地内の広告物等、道路占用物件の色彩等は、周辺の自然やまちなみとの融和するように管理する。道路敷地外の屋外広告物等についても自治体や民間事業者等、地域の関係者と協議していく必要がある。



屋外広告物が道路景観を阻害している。

●改善策の例

バス停の設置にあたり、他の道路附属物との色彩の調和や存在感の低減を行っている。



透天性のある屋根材を使用し、歩道空間への圧迫感を軽減している。(出典:資料1)



バス停上屋と道路附属物等がダークブラウンで統一されている。(出典:資料1)

●解説

- 道路占用物の色彩等は、周辺の自然やまちなみと融和し、他の道路附属物等との統一感のある色彩等を選定することが必要であり、占用者との協議等により調整する必要があります。
- 占用許可確認の段階で、設計時の景観配慮事項や当該道路の景観基本方針を満たすよう管理することが重要です。また、道路区域内にある違法な屋外広告物については、道路管理者が撤去を進める必要があります。
- 道路敷地外の屋外広告物等の景観改善を含めて、地域住民が参加する道路景観評価を実施し、その結果をもって、景観阻害を招いている道路占用物や屋外広告物等の設置者へ注意を促す方法もあります。

ベンチ・照明・植栽樹等のデザインが道路空間と調和しており、歩いて楽しい空間を創出している。(出典:資料2)



参考資料1 道路のデザインに関する検討委員会:
景観に配慮した道路附属物等ガイドライン、平成29年10月

参考資料2 国土交通省 国土技術政策総合研究所: 国土技術政策総合研究資料 第1009号
「地域づくりを支える道路空間再編の手引き(案)」、平成30年2月

関連: 北海道の道路デザインブック(案) 9-7 屋外広告物等

その他① 施工時において、仮設物の過剰な設置など、周囲の景観を阻害していないか？

●景観改善のポイント

工事現場への標識や看板等の過剰な設置は、景観の阻害要因になるだけでなく、本当に必要な情報が伝わらなくなる可能性があるため、その場所、その時に本当に必要なものだけを設置することが重要である。



同じ場所に、蛍光色で誘目性が高い仮設の標識等が多数設置されており、より重要な誘導員が目立たない。



蛍光色の仮設の標識が狭い間隔で過剰に設置されており、景観を阻害している。



休工中で通行に支障がないにも関わらず、工事の標識が設置されていると、混乱を招く。

●解説

- 工事現場に防護柵や標識・看板等の仮設物を設置する場合、安全対策を意識するあまり蛍光色等の誘目性が高い標識や看板を過剰に設置すると、景観の阻害要因となるだけでなく、誘導員の存在など本当に必要な情報が伝わらなくなり、かえって安全性が低下する可能性があります。
- 仮設物についても、常設の道路附属物等と同様に、その場所、その時に本当に必要なものだけを設置することが重要です。
- 仮囲いなどに様々な工夫を凝らすことで、的外れの過剰な装飾などになると、かえって逆効果になります。
- 植栽や草花を持込む事例もあるが、現場で機械や資材が乱雑に放置されているなど、整理整頓がなされていないと、活かされません。

その他② 暫定供用において、暫定形の土工の違和感や不自然な道路構造物の露出があったり、道路標識等の附属物が必要以上に設置されていないか？

●景観改善のポイント

暫定供用する道路は、完成形の合理性とともに、暫定供用期間の道路のあり方にも配慮して計画・設計を行う。

暫定供用される際の防護柵などの仮設物は、仮設用として適切な機能を有しかつ景観に配慮したものをを用いる。また、標識類も可能な限り、集約・撤去する。



生活空間等のなかで過剰な注意喚起が行われている。(出典:資料1)



仮設の防護柵が目立ちすぎている仮設の防護柵が目立ちすぎている。(出典:資料1)



暫定供用の際に多いT字路は、特に、過剰に標識類が設置されやすい。(出典:Google ストリートビュー)

●解説

- 暫定供用は、地域および道路利用者には完成した道路として受け止められ、長期にわたることも多いため、暫定供用の状態が地域の日常生活や景観の観点からみて、可能な限り最適なものとなるように工夫する必要があります。
- 暫定供用される際、車線幅員調整等のために仮設の防護柵が設置される場合がありますが、景観阻害を引き起こさないように配慮する必要があります。現地の交通状況を考慮し、衝突時の車両の誘導や路外への逸脱防止機能を必要としない場所では、イメージアップの観点からもプランター等の施設で代替することも可能です。

Scenic Landscape Research Team

地域景観チーム

4.ダウンロード先、最新の研究成果

研究テーマ
Reserch Themeリーフレット
Leaflet論文資料
Reserch Paper講演・主催セミナー
Lecture & Seminar技術資料・マニュアル
Technical Document
& Manual

Photo Information

OPEN

技術相談

Technical Consultation

Library

TopPage 写真集

INFORMATION・お知らせ

☰ 一覧を見る

- 2019年04月01日
地域景観ユニットは地域景観チームになりました。(2019.4.1)
- 2019年03月29日
「北海道の道路デザインブック(案)」「北海道における道路景観チェックリスト(案)」を改訂しました。(2019.3.29)

以下から、ダウンロードできます

◆ 本書のPDFファイルを以下で提供しています

<http://scenic.ceri.go.jp/manual.htm>

不明点等がありましたら、以下迄ご連絡下さい

寒地土木研究所 地域景観チーム

札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34

TEL : 011-590-4044

e-Mail : [scenic @ ceri.go.jp](mailto:scenic@ceri.go.jp)

地域景観チーム
Scenic Landscape Research Team

Contents
マニュアル
Manual

研究テーマ
Research Theme

リーフレット
Leaflet

論文資料
Research Paper

講演・主催セミナー
Lecture & Seminar

技術資料・マニュアル
Technical Documents & Manual

寒地土木研究所 地域景観ユニットでは、研究の成果として各種マニュアルをPDFファイルで提供しています。

北海道の道路デザインブック(案) 四訂版
～ 積雪寒冷地における計画・設計・建設・維持管理での基本的な考え方～

本書では、北海道の国道を「地域の自然・歴史・文化」と調和を図りつつ整備し、国民一人ひとりの資産として次の世代に引き継ぐために、道路と沿道の景観形成に関する基本理念、実質的な規定と実例を示したものです。今回、「道路デザイン指針(案)」(H29.10改訂)を初め前回改訂版以後の各種基準改定や知見を踏まえ、四訂版としてまとめました。

PDFファイルのダウンロード

表紙・目次

第1章 本書の活用にあたって

第2章 道路景観の意義

第3章 北海道の景観特性

第4章 道路デザインコンセプト

第5章 道路デザイン手法

第6章 道路線形

第7章 道路断面

第8章 構造物

第9章 道路附属物および道路

第10章 緑化

第11章 休憩施設

第12章 事業連携

第13章 その他の留意事項

一括ダウンロード(約81MB)

資料編(約15MB)

北海道における道路景観チェックリスト 改訂版
～ 計画・設計・建設・維持管理での具体的な景観向上策～

本書は、道路景観に対する思想や解説を示した「北海道の道路デザインブック(案)」(平成22年4月)の実践編として、道路事業の計画段階から既存道路の維持管理段階における、より具体的な景観改善の手法を示したものです。

今回、「北海道の道路デザインブック(案)」の改定(平成31年3月)や各種研究成果を踏まえ、内容の一部更新・追記等を行い改訂版としてとりまとめています。

本書に記述されている改善手法は、いずれも関係基準や指針に準拠し、比較的取組みやすい内容も多く掲載しており、北海道における道路景観が少しでも改善し、道路空間の質的向上により、地域振興にも貢献できるよう、本書を積極的に活用していただき。

PDFファイルのダウンロード

表紙・目次

道路線形編

道路断面編

道路緑化編

道路付属施設編

維持管理コア編

その他編

海外事例、参考資料一覧

一括ダウンロード(約26MB)

ご紹介ー北海道の色彩ポイントブック



北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩検討の手引き 北海道の色彩ポイントブック

平成29年10月に公表された「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」では、道路附属物等に望ましい色彩として4色(景観4色)が提示されましたが、北海道の道路環境は本州以南の地域や非積雪寒冷地とは大きく特性が異なります。したがって、北海道の道路等においては、全国標準とは異なる色彩を選定していく必要も考えられます。

本書では、北海道における道路施設の色彩等の配慮事項やその検討方法について、当研究所での調査研究成果等をもとに取りまとめました。



PDFファイルのダウンロード



(2018.06)

ご紹介ー北海道の色彩ポイントブック

目次

01	目的と活用方法	1
02	色彩の基礎知識	2
03	北海道および積雪寒冷地の道路環境と色彩	4
04	道路施設の景観の配慮事項	6
05	道路施設の色彩の配慮事項	8
06	北海道における道路附属物等の色彩〈推奨色〉	11
付録	イロイロ・コラム	18

北海道における道路施設の色彩選定のポイント

前項① (p11) のとおり、「背景となる自然景観に応じて、これに馴染む(融和する)色彩を選ぶ」というのが、色彩選定にあたっての基本的な考え方です。

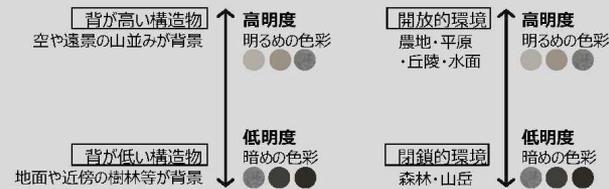
ここでは、対象とする「構造物の形状」とその「背景となる景観」の特性別に、どのような色彩を選定すべきかを整理します。

〇明るめの色彩 or 暗めの色彩

前項② (p11) のとおり、「明るい環境や明るい背景では明度の高い色彩」を、「暗い環境や暗い背景では明度の低い色彩」を選ぶのが基本です。

対象とする構造物が、空や遠景の山並みなど明るいものを背景とする場合、あるいは、そういったものを背景としやすい背の高い構造物の場合は、高明度の色彩が適合する機会が多いと見込まれます(写真 A, B, C)。逆に、地面や近傍の樹林などの暗いものを背景とする場合、あるいはそういったものを背景としやすい背の低い構造物の場合は、低明度の色彩が適合する機会が多くなります(写真 B, D)。

ただし、暗い色彩には実際よりも収縮して見える効果(色の収縮効果)、明るい色彩には膨張効果があるので、細い部材など場合には背景よりも暗めの色彩を選ぶほうが、すっきりと背景に溶け込んで目立たなくなります。



A: 開放的環境、空を背景に暗い色彩の例
・ 明るい空にダークブラウンの標識柱が、より大きなコンクリート製電柱(明るいグレー)よりも際だって見える。



B: 背の高い構造物に明るい色彩、背の低い構造物に暗い色彩の例

